# 戦国武将起死回生の逆転戦術

榎本秋

マガジンハウス

# 戦国武将
# 起死回生の
# 逆転戦術

榎本秋

マガジンハウス

**榎本秋**　えのもとあき

著述業。日本史を新しい視点でわかりやすく解説するのを得意とする著書に『秀吉、家康を手玉に取った男　「東北の独眼竜」伊達政宗』（マガジンハウス）、『戦国軍師入門』『外様大名40家』『歴代征夷大将軍総覧』（ともに幻冬舎新書）、『10大戦国大名の実力「家」から読み解くその真価』（ソフトバンク新書）、『籠城 戦国時代に学ぶ逆境のしのぎ方』（宝島社新書）、『殿様の左遷・栄転物語』（朝日新書）などがある。

構成・編集協力――桜雲社

編集協力――安達真名、榎本海月、鳥居彩音
（ともに榎本事務所）

本文デザイン――菅沼由香里（榎本事務所）

戦国武将　起死回生の逆転戦術

二〇一二年　二月二〇日　第一刷発行

著者――榎本秋

発行者――石﨑孟

発行所――株式会社マガジンハウス
東京都中央区銀座3―13―10　〒一〇四―八〇〇三
電話番号　受注センター　〇四九（二七五）一八一一
書籍編集部　〇三（三五四五）七〇三〇

印刷・製本――凸版印刷株式会社

装丁――山本ユミ

©2012 Aki Enomoto, Printed in Japan
ISBN978-4-8387-2397-3　C0095
乱丁本・落丁本は購入書店明記のうえ、小社製作部宛にお送りください。
送料小社負担にてお取り替えいたします。
定価はカバーと帯に表示してあります。
本書の無断複製（コピー、スキャン、デジタル化）は禁じられています
（但し、著作権法上での例外は除く）。断りなくスキャンやデジタル化することは著作権法違反に問われる可能性があります。

はじめに ―― 2

## 第一章　本能寺の変――そのとき、武将は動いた

◉本能寺の変　信長横死の瞬間に天下取りの勝負が始まる ―― 8
秀吉の即断が歴史を変えた　【羽柴秀吉〈中国大返し〉】 ―― 10
信長の三男・信孝を退けた運を好機に　【長宗我部元親〈四国統一前〉】 ―― 14
滝川一益を追い払い最大版図を築いた北条氏政　【北条氏政〈神流川の戦い〉】 ―― 18
上司より親友をとった前田利家　【前田利家〈賤ヶ岳の戦い〉】 ―― 22
一度は自刃も決意した家康　【徳川家康〈神君伊賀越え〉】 ―― 26
親戚だった光秀の誘いを拒絶した細川父子　【細川藤孝・忠興〈細川氏の選択〉】 ―― 28
＊コラム1　肉親からも恐れられたという梟雄・宇喜多直家 ―― 30

## 第二章　関白豊臣秀吉誕生――強大な存在と対峙

秀吉と家康、両雄が激突！　【徳川家康〈小牧・長久手の戦い〉】 ―― 32
外交僧の判断でいち早く秀吉に臣従　【安国寺恵瓊〈毛利氏・外交僧〉】 ―― 36
秀吉を後ろ盾として利用した上杉景勝　【上杉景勝〈豊臣五大老〉】 ―― 40
白装束で秀吉に謝罪した政宗　【伊達政宗〈小田原遅参〉】 ―― 44
謀反の疑いをかけられた伊達政宗　【伊達政宗〈葛西・大崎の一揆〉】 ―― 48
大軍に徹底抗戦するつもりだった元親　【長宗我部元親〈秀吉四国攻め〉】 ―― 52
重臣・紹運に救われた大友氏　【大友義統〈重臣・高橋紹運〉】 ―― 54
秀吉にいち早く恭順の姿勢を示した南部中興の祖　【南部信直〈豊臣大名〉】 ―― 56
＊コラム2　実母を人質に送るという苦渋の決断で難局を乗り切った前田利長 ―― 58

## 第三章　関ヶ原の戦い――敵になるか味方につくか

◉関ヶ原の戦い　天下の分け目は人生の分け目となる！ ―― 60

家康の周到な準備が勝利を生む 【関ヶ原の戦い〈東軍・徳川家康〉】 62
智将兼続の猛攻を凌いだ最上義光 【上杉・最上〈長谷堂の戦い〉】 66
傍観を決め込んだ吉川・毛利 【関ヶ原の戦い〈西軍・吉川広家〉】 70
敵味方に分かれて戦った真田父子 【関ヶ原の戦い〈真田昌幸・信之・信繁〉】 74
自分の城を差し出して大出世した山内一豊 【関ヶ原の戦い〈山内一豊〉】 78
敵陣の真ん中を強行突破した島津義弘 【関ヶ原の戦い〈島津の退き口〉】 80
東軍として九州を制圧せんとした黒田如水 【関ヶ原の戦い〈黒田如水〉】 84
＊コラム3 蛍大名と呼ばれながらもお家再興を果たした京極高次 86

## 第四章 戦場の駆け引き――生きるか死ぬかの瀬戸際

先見の明と謀略による大勝で一気に勢力拡大！ 【毛利元就〈厳島の戦い〉】 88
目指すは信濃制覇！ 謙信との名勝負 【武田信玄〈川中島の戦い（第四次）〉】 92
奇襲戦で強敵・今川義元を撃破！ 【織田信長〈桶狭間の戦い〉】 96
敗北から学び、雪辱をとげた海上戦 【織田信長〈木津川口の戦い〉】 100
柴田勝家を滅ぼし、織田氏の実権を握る 【羽柴秀吉〈賤ヶ岳の戦い〉】 104
家康に戦では勝ちきれず心理戦で挽回 【羽柴秀吉〈小牧・長久手の戦い〉】 108
家康の求心力が一揆鎮圧のカギに 【徳川家康〈三河一向一揆〉】 112
家康の奇策が徳川壊滅の危機を救う 【徳川家康〈三方ヶ原の戦い〉】 116
独自の戦術で大勢力を討つ 【島津義久〈耳川の戦い〉】 120
九州の勢力図を書き換えた義久の慧眼 【島津義久〈沖田畷の戦い〉】 124
政宗、激戦で強運示す 【伊達政宗〈人取橋の戦い〉】 128
政宗の機転が形勢逆転のきっかけを生んだ 【伊達政宗〈摺上原の戦い〉】 132
柴田勝家、決死の覚悟で部下を鼓舞!? 【柴田勝家〈瓶割りの柴田〉】 136
謀略を巡らせ、大軍に圧勝！ 【北条氏康〈河越夜戦〉】 138
小田原攻めで唯一落ちなかった城 【成田氏〈忍城の戦い〉】 140
小大名の一家臣から佐賀藩主の祖に 【鍋島直茂〈肥前制覇〉】 142

もくじ



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook

# もくじ

＊コラム4　戦乱の世に翻弄された室町幕府最後の将軍・足利義昭 ―― 144

## 第五章　本当の敵は身内――骨肉の争い

窮地から尾張統一へ　【織田信長〈敵対勢力一掃〉】 ―― 146
奥州伊達氏で繰り返された内乱と復興　【伊達氏〈父子の対立〉】 ―― 150
武田氏骨肉の争い　【武田信玄〈実父追放〉】 ―― 154
異母兄と家を二分し対立　【今川義元〈花倉の乱〉】 ―― 158
越後の雄・上杉氏を揺るがした内乱　【景勝vs景虎〈御館の乱〉】 ―― 162
家督争いが続いた最上氏　【最上義光〈父子対立〉】 ―― 166
＊コラム5　下剋上によって室町幕府を支配し大版図を築いた三好長慶 ―― 168

## 第六章　同盟――不可能を可能にする

二十年にわたって続く強力な絆　【同盟〈織田・徳川〉】 ―― 170
後背の憂いをなくした三国同盟　【同盟〈甲相駿三国〉】 ―― 174
反信長勢力が連携して攻撃開始　【同盟〈織田信長包囲網〉】 ―― 178
昨日の敵が今日の同盟相手に　【同盟〈武田・徳川〉】 ―― 182
義弟・長政に裏切られた信長　【同盟〈織田・浅井〉】 ―― 186
敵は味方に…複雑に変わる同盟関係　【同盟〈上杉・武田〉】 ―― 190
仇と手を結んだ武田勝頼　【同盟〈勝頼・謙信〉】 ―― 194

おわりに ―― 196
主要参考文献 ―― 198

# 戦国武将
# 起死回生の
# 逆転戦術

榎本秋

マガジンハウス

# はじめに

老若男女に広く「歴史もの」の面白さが知れ渡り、歴史ブームと言われるようになって久しい。その中でも特に人気が高いのは戦国時代ものであるわけだが、さて、戦国時代の面白さとはなんだろうか。男たちの生き様、要所で顔を出す女性たちの輝き、特に末期になって鮮やかに咲き誇る文化、そして時代が回天していく歴史的ダイナミズムと戦国時代の面白さの種類は色々あるが、私はその中でも特に「起死回生」の面白さに着目したい。

戦国時代は、大名たちの誰もが一家滅亡の危機に襲われる可能性があり、しかしそこから一発逆転を遂げるチャンスもまたあった。そうした「起死回生」「逆転」の面白さを紹介しようというのが本書の主要コンセプトである。

本書では簡便な説明と地図・図版によってわかりやすく、戦国大名たちが「どうしてそんな状態に追い込まれたのか」「そこか

らどうやって起死回生を遂げたのか」を紹介している。

さらに各項の最後に「起死回生ポイント」という項目を置き、大名たちがその危機からどんなやり方で脱出したのか、がわかりやすくなるようにした。「**即断**（重大な事件が起こったとき、即決即断で行動したことでピンチを逃れた）」「**機転**（状況をすばやく理解して、場合によっては方向転換もできる柔軟さ）」「**奇策**（相手を驚かし、その隙を衝く）」、「**忠誠**（主君のあやまりを正し、家が乱世を生き残るために優秀な重臣〈ブレーン〉は必須）」「**駆け引き**（微妙なニュアンスを相手の反応から読み取れなければ生き残れない！）」「**不屈**（不利な状況、籠城戦で負けないための我慢の心）」「**根回し**（戦いは激突前から始まっている。事前準備は大事）」など、多様なポイントに基づく起死回生を楽しんでいただきたい。

はじめに ―― 2

## 第一章　本能寺の変――そのとき、武将は動いた

◉本能寺の変　信長横死の瞬間に天下取りの勝負が始まる ―― 8
秀吉の即断が歴史を変えた　【羽柴秀吉〈中国大返し〉】 ―― 10
信長の三男・信孝を退けた運を好機に　【長宗我部元親〈四国統一前〉】 ―― 14
滝川一益を追い払い最大版図を築いた北条氏政　【北条氏政〈神流川の戦い〉】 ―― 18
上司より親友をとった前田利家　【前田利家〈賤ヶ岳の戦い〉】 ―― 22
一度は自刃も決意した家康　【徳川家康〈神君伊賀越え〉】 ―― 26
親戚だった光秀の誘いを拒絶した細川父子　【細川藤孝・忠興〈細川氏の選択〉】 ―― 28
＊コラム1　肉親からも恐れられたという梟雄・宇喜多直家 ―― 30

## 第二章　関白豊臣秀吉誕生――強大な存在と対峙

秀吉と家康、両雄が激突！　【徳川家康〈小牧・長久手の戦い〉】 ―― 32
外交僧の判断でいち早く秀吉に臣従　【安国寺恵瓊〈毛利氏・外交僧〉】 ―― 36
秀吉を後ろ盾として利用した上杉景勝　【上杉景勝〈豊臣五大老〉】 ―― 40
白装束で秀吉に謝罪した政宗　【伊達政宗〈小田原遅参〉】 ―― 44
謀反の疑いをかけられた伊達政宗　【伊達政宗〈葛西・大崎の一揆〉】 ―― 48
大軍に徹底抗戦するつもりだった元親　【長宗我部元親〈秀吉四国攻め〉】 ―― 52
重臣・紹運に救われた大友氏　【大友義統〈重臣・高橋紹運〉】 ―― 54
秀吉にいち早く恭順の姿勢を示した南部中興の祖　【南部信直〈豊臣大名〉】 ―― 56
＊コラム2　実母を人質に送るという苦渋の決断で難局を乗り切った前田利長 ―― 58

## 第三章　関ヶ原の戦い――敵になるか味方につくか

◉関ヶ原の戦い　天下の分け目は人生の分け目となる！ ―― 60

家康の周到な準備が勝利を生む 【関ヶ原の戦い〈東軍・徳川家康〉】 62
智将兼続の猛攻を凌いだ最上義光 【上杉・最上〈長谷堂の戦い〉】 66
傍観を決め込んだ吉川・毛利 【関ヶ原の戦い〈西軍・吉川広家〉】 70
敵味方に分かれて戦った真田父子 【関ヶ原の戦い〈真田昌幸・信之・信繁〉】 74
自分の城を差し出して大出世した山内一豊 【関ヶ原の戦い〈山内一豊〉】 78
敵陣の真ん中を強行突破した島津義弘 【関ヶ原の戦い〈島津の退き口〉】 80
東軍として九州を制圧せんとした黒田如水 【関ヶ原の戦い〈黒田如水〉】 84
＊コラム3 蛍大名と呼ばれながらもお家再興を果たした京極高次 86

## 第四章 戦場の駆け引き――生きるか死ぬかの瀬戸際

先見の明と謀略による大勝で一気に勢力拡大！ 【毛利元就〈厳島の戦い〉】 88
目指すは信濃制覇！ 謙信との名勝負 【武田信玄〈川中島の戦い（第四次）〉】 92
奇襲戦で強敵・今川義元を撃破！ 【織田信長〈桶狭間の戦い〉】 96
敗北から学び、雪辱をとげた海上戦 【織田信長〈木津川口の戦い〉】 100
柴田勝家を滅ぼし、織田氏の実権を握る 【羽柴秀吉〈賤ヶ岳の戦い〉】 104
家康に戦では勝ちきれず心理戦で挽回 【羽柴秀吉〈小牧・長久手の戦い〉】 108
家康の求心力が一揆鎮圧のカギに 【徳川家康〈三河一向一揆〉】 112
家康の奇策が徳川壊滅の危機を救う 【徳川家康〈三方ヶ原の戦い〉】 116
独自の戦術で大勢力を討つ 【島津義久〈耳川の戦い〉】 120
九州の勢力図を書き換えた義久の慧眼 【島津義久〈沖田畷の戦い〉】 124
政宗、激戦で強運示す 【伊達政宗〈人取橋の戦い〉】 128
政宗の機転が形勢逆転のきっかけを生んだ 【伊達政宗〈摺上原の戦い〉】 132
柴田勝家、決死の覚悟で部下を鼓舞!? 【柴田勝家〈瓶割りの柴田〉】 136
謀略を巡らせ、大軍に圧勝！ 【北条氏康〈河越夜戦〉】 138
小田原攻めで唯一落ちなかった城 【成田氏〈忍城の戦い〉】 140
小大名の一家臣から佐賀藩主の祖に 【鍋島直茂〈肥前制覇〉】 142

もくじ



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook

# もくじ

＊コラム4　戦乱の世に翻弄された室町幕府最後の将軍・足利義昭 ―― 144

## 第五章　本当の敵は身内――骨肉の争い

窮地から尾張統一へ　【織田信長〈敵対勢力一掃〉】 ―― 146
奥州伊達氏で繰り返された内乱と復興　【伊達氏〈父子の対立〉】 ―― 150
武田氏骨肉の争い　【武田信玄〈実父追放〉】 ―― 154
異母兄と家を二分し対立　【今川義元〈花倉の乱〉】 ―― 158
越後の雄・上杉氏を揺るがした内乱　【景勝vs景虎〈御館の乱〉】 ―― 162
家督争いが続いた最上氏　【最上義光〈父子対立〉】 ―― 166
＊コラム5　下剋上によって室町幕府を支配し大版図を築いた三好長慶 ―― 168

## 第六章　同盟――不可能を可能にする

二十年にわたって続く強力な絆　【同盟〈織田・徳川〉】 ―― 170
後背の憂いをなくした三国同盟　【同盟〈甲相駿三国〉】 ―― 174
反信長勢力が連携して攻撃開始　【同盟〈織田信長包囲網〉】 ―― 178
昨日の敵が今日の同盟相手に　【同盟〈武田・徳川〉】 ―― 182
義弟・長政に裏切られた信長　【同盟〈織田・浅井〉】 ―― 186
敵は味方に…複雑に変わる同盟関係　【同盟〈上杉・武田〉】 ―― 190
仇と手を結んだ武田勝頼　【同盟〈勝頼・謙信〉】 ―― 194

おわりに ―― 196
主要参考文献 ―― 198

# 第一章

# 本能寺の変——そのとき、武将は動いた

予期せぬ事態に直面したときの瞬間的な判断が、その後の自分の立場を大きく変えることがある。戦国時代最大の事件と後世呼ばれることになる「本能寺の変」は、武将たちの未来を決定づけた。

織田信長、横死——。圧倒的存在感を放つカリスマが謀反によって斃れるという非常事態に際し、彼らは自らのため、そして家のために最善となる道を瞬間的に判断しなければならなかった。重大事件に直面したときに、武将たちがとった行動の内容とは？

# 本能寺の変

## 信長横死の瞬間に天下取りの勝負が始まる

歴史に“もしも”を考えるならば、必ず例に挙げられるのが「本能寺の変がなかったら日本はその後どうなっていただろうか」であろう。

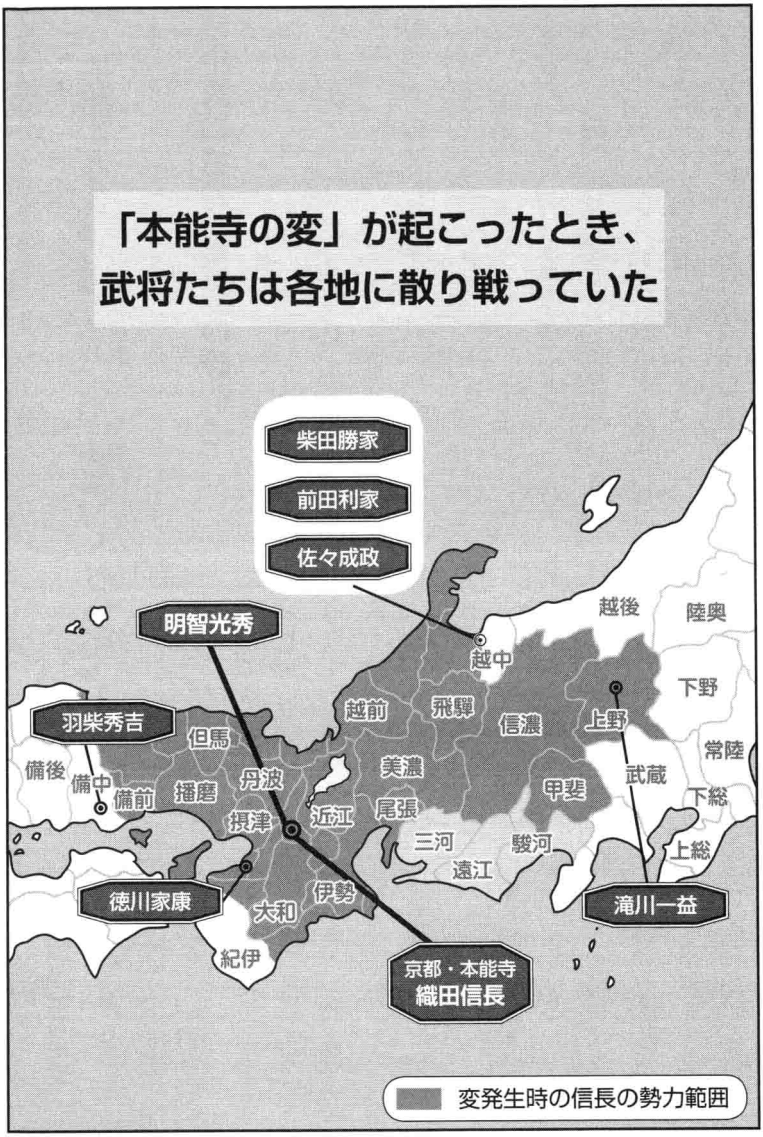
上杉謙信が死に武田は滅亡、中国の毛利は失速して石山本願寺の脅威もなくなった織田信長にとって、天下統一はもう夢物語ではなくなっていた。だがそのとき、衝撃的な報が日本全国を駆け巡る。

信長の重臣・明智光秀による、まさかの謀反劇である。

わずかな手勢で京都・本能寺に滞在していた信長を光秀の軍勢が包囲したのは一五八二年（天正十）六月二日の早朝。秀吉の中国攻めの援軍として出立するはずの光秀が、突如武将に本能寺攻めを命じたのである。信長が異変に気づいたときにはすでに本能寺は光秀軍に囲まれており、もはやこれまでと悟った信長は寺に火を放ち自害したという。

信長の重臣たちはこのとき、関東や北陸、中国など京から遠く離れた場所にそれぞれ派遣されており、変報を聞いてすぐに駆けつけられる状況ではなかった。

しかし、この本能寺の変報に接し、武将たちがとっさにとった行動が、後の自身の立場を大きく変えていくことになる。


「本能寺の変」が起こったとき、
武将たちは各地に散り戦っていた
柴田勝家
前田利家
佐々成政
明智光秀
羽柴秀吉
徳川家康
滝川一益
京都・本能寺
織田信長
越後
陸奥
越中
下野
越前
飛騨
信濃
上野
常陸
但馬
備後
備中
備前
播磨
丹波
美濃
武蔵
甲斐
下総
摂津
近江
尾張
三河
駿河
上総
遠江
伊勢
大和
紀伊
変発生時の信長の勢力範囲

# 秀吉の即断が歴史を変えた

羽柴秀吉〈中国大返し〉

## 備中高松城の水攻めの最中に

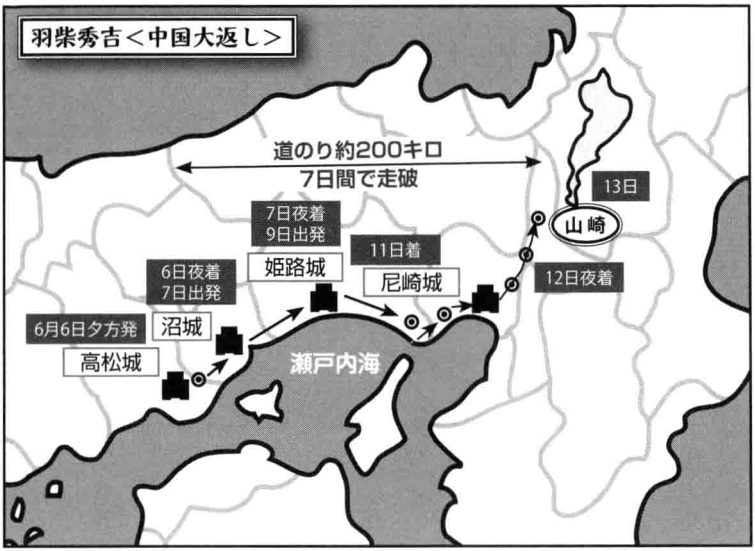
一五八二年（天正十）六月、羽柴秀吉は毛利の部将・清水宗治が立て籠もる備中高松城を包囲していた。川の流れを変えて水を引き込み、高松城を孤立させたのだ。

包囲戦のなかで「本能寺の変」を知った秀吉は、主君の仇を討つため急いで毛利氏と講和を結び、京へ向けて全軍で引き返す。このときの、備中国高松城から山城国山崎まで、七日間で約二〇〇キロを踏破した空前の大強行軍を特に「中国大返し」と言う。

この年の三月、秀吉は播磨国姫路から大軍を率いて備前国に入り、岡山城の宇喜多秀家とともに毛利方の城を続けて落とす。しかし高松城の清水宗治は秀吉の誘いに応じることなく毛利方にとどまった。五月、高松城を包囲した秀吉は水攻めの策をとった。三方を湿地に囲まれた要害は、梅雨時だったこともあり、完全に水没する。

この間に毛利氏は、毛利輝元、吉川元春、小早川隆景ら主力の一万余が援軍として高松城へ向かっていた。秀吉からの急報を受けた信長は自ら出陣することを決め、明智光秀らに先陣を命じると、まもなく京に入った。

そして六月二日、本能寺の変が起こる。




## 謀反を隠蔽して毛利氏と講和

三日夜には秀吉のもとに信長横死の報が届いた。毛利方に向けて送られた光秀の密使が誤って秀吉の陣中に迷いこみ捕らえられたからと言われる。事情を知った秀吉は、重大な決断を下し、迅速かつ大胆に行動した。

秀吉は深夜のうちに毛利氏の外交僧・安国寺恵瓊（あんこくじえけい）を呼んで、信長の死を隠したまま講和を迫った。信長が備中に到着したら和平交渉は難しくなると言って、毛利氏に即時の停戦を求めたのだ。明らかに嘘である。

すでに高松城下は床上まで浸水していて、秀吉の提示した講和案は領地問題には触れていなかった。信長との全面対決を避けたかった毛利氏は、苦渋の選択で高松城の開城と城主・清水宗治の自害という条件に応じた。



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.